

科目名 科目コード	療養生活支援実習Ⅱ 504	必修科目	3年次2学期	実習	4単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 原 頼子				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、河原田 康貴、専任教員4名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 生涯にわたりコントロールを必要とする疾患をもつ成人期・老年期の対象を理解し、日常生活援助や生活の再構築を支援し、対象のQOLの維持・向上を目指した看護実践能力を修得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の発達課題を踏まえ、生涯にわたりコントロールを必要とする疾患を持つ対象の身体・心理・社会的側面を理解することができる。 2) 生活の調整を必要とする対象の健康障害に応じた日常生活援助が実践できる。 3) 慢性の疾患をもつ対象およびその家族に対し、自己管理を促す援助を実践できる。 4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に向けて、その人らしい生活の再構築をはかるための援助が実践できる。 5) 生涯にわたりコントロールを必要とする疾患をもつ対象に対する包括的アプローチとサポートシステムおよび医療連携福祉連携の必要性が理解できる。 6) 専門職者として必要とされる態度を身につけることができる。 <p>実習期間 平成27年9月～平成28年2月</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 久留米大学病院で4週間の実習を行う。 2) 原則として患者1名を受け持ち、その患者に必要な日常生活援助や自己管理を促す援助等を通し、看護過程を展開する。 3) 実習期間内に、医療連携センター実習半日と、外来実習半日、緩和ケアセンター実習1日を行う。 4) 第4週目の木曜日は学内で午前中に実習の振り返りを行い、午後は全体発表、ディスカッションを通して学びを共有する。 				
テキスト	鈴木志津枝・内布敦子：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ 2014 鈴木志津枝・藤田佐和：成人看護学 慢性期看護論 第2版、ヌーヴェルヒロカワ 2014				
参考書	がん看護学 大西和子・飯野京子編集 ヌーヴェルヒロカワ 2011				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日々の学習（実習）活動や実習記録・レポートなどのポートフォリオ、カンファレンスなどを通して総括評価とする。 2) 実習目標（内容）に対する到達度評価とする。 *ただし、出席3/4以上に満たないものは評価対象とならない。 				
実習にむけての準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 療養生活支援論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、フィジカルアセスメント、看護過程Ⅰ、Ⅱ、健康教育方法論の学習内容を十分に復習して臨んで下さい。 2) 生活援助技術Ⅰ、Ⅱ、診療に伴う援助技術の既修の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨んで下さい。 				